蔵&まちかどミュージアム
まちなかMAP

◆「まちかどミュージアム」とは・・・◆

喜多方のまちなかでは、店の一角や道端などあちらこちらで、珍しい品々、代々受け継がれてきた技、それらを担うすてきな方々に出会えます。これらは、ひとつひとつは小さなものでも、まちの歴史や生活文化をそれぞれ雄弁に語っています。「まちかどミュージアム」は、知らなければ通り過ぎてしまうかもしれないこのような小さな取り組みをつなげることで、みなさんにまちじゅうを楽しく歩いていただき、より愛着を持っていただくきっかけにしよう！という取り組みの第一歩です。

1.五十嵐六七八薬館

歴史を感じさせる看板

①明治中期
②座敷蔵・店蔵・塀蔵・味噌醤油蔵・商品蔵
③店内には様々な時代の看板や、半纏がある。向かいの元「珈琲蔵まるば」にある漆器や陶器等の道具類は、声をかけると見せてもらえる。

2.五十嵐酒店

昔ながら蔵群の模型

①大正末期、明治中期
③蔀戸（しとみど）の残る店内には、立派な模型があり、この屋敷は、かつて蔵が群をなしていたことがわかる。通りから見える煉瓦の小さな蔵（非公開）は、厠である。

3.甲斐本家

豪華な蔵座敷など

①大正後期
②座敷蔵・店蔵
③喜多方では珍しい黒漆喰、51畳の座敷蔵、螺旋階段など喜多方一の贅沢さ。非公開の地下室では戦中に密かに西洋の文化を愉しんでいたという。国登録有形文化財。

4.やまき

蔵の桐箪笥ショールーム

①大正初期
②店蔵
③店蔵内には昔の番台が残る。奥の蔵は桐箪笥のショールーム。蔵の中に桐箪笥が並ぶ姿は見事。甲斐本家が現存の蔵を建てるときには、この蔵を住まいとして使っていた。

5.金田洋品店

煉瓦蔵・写真家金田実

①明治末期
②店蔵
③お店を側面から見ると煉瓦蔵であることがわかる。喜多方の蔵の写真をとりつづけ、喜多方が「蔵の町」として注目されるきっかけとなった、故金田氏のお宅。

6.山中せんべい

煎餅焼き体験

①明治初期
②店蔵
③蔀戸、座売り空間などが、残っており、店蔵のオリジナルな使い方を今日に伝える。内装はすべて白漆喰。天井の波打ちは最高の職人技。 煎餅焼き体験は要予約。tel 22-0614

7.染色工房れんが

会津型染織工房

①不明
②座敷蔵・味噌蔵
③喜多方会津型のギャラリー・教室や織物教室（月・火・土）。予約すると、実際に染色している様子を見たり・体験したりすることができる。
tel 22-4131

8.喫茶店くら

蔵の喫茶店

①明治末期
②店蔵
③もともとは綿屋。約20年前に改修して喫茶店としてオープンした。内部の壁も白漆喰。立派な観音扉が、厨房の入り口。2階に上ると釘を一本も使っていない天井の架構がよく見える。

9.中の越後屋

裏門からの蔵並の眺め

①不明
②座敷蔵・味噌醤油蔵
③細長い敷地に蔵が並んでいるため、蔵と蔵の間は路地のよう。現在も醸造蔵として使用中である。表の店には、昔の面影が良く残っており、店の横には年代物の自転車などもある。

10.嶋新

映画「遠き落日」の舞台

①明治の初期から中期
②店蔵・味噌醤油蔵
③店蔵は、けやきの総造り。裏には、商品蔵・味噌・醤油蔵などが並ぶ。手前には、明治から昭和中期にかけての生活用品が並べられている。（現在は非公開）

11.島慶園

座売りの店に並ぶ茶道具

①昭和5年
②店蔵・（座敷蔵・商品蔵は非公開）
③かつて喜多方周辺は茶の産地であり、ここも茶葉製造業として創業。座売りの空間、並べられた火鉢や昔の茶壺などに老舗の風格がある。

12.安勝寺

蔵造りの寺院

①明治中期
②本堂
③応永29年（1422年）の創建。1880年（明治13年）の大火で本堂が焼失し、後に蔵造りの本堂が再建された。窓のデザインが特徴的で、重厚感のある黒い瓦と白漆喰の対比が美しい。

13.夢屋

アンティークと観音扉

①明治初期
②漆器の倉庫
③飯豊連峰の伏流水で淹れた美味しい珈琲が飲める蔵の喫茶店。店内は、アンティークや観音開きの扉が、素敵なインテリアとなっている。光の漏れてくる夜の外観も美しい。必見。

14.大和川酒造

北方風土館～酒蔵見学

①江戸～昭和
②酒蔵、座敷蔵
③敷地内には、様々な時代の蔵造りの建物が残されており、造り酒屋の屋敷構成が分かる。ここで酒作りの説明を聞ける。和風住宅（現在は蕎麦処）や曳き家してきた蔵座敷も必見。

15.清川酒造

酒蔵見学

①明治～江戸期
②家財蔵・酒蔵（貯蔵・仕込み）
③創業寛永8年。仕込み蔵を無料で公開。試飲コーナーには、昔の徳利など酒作りに関連のある様々な品が並べられている。

16.島三

垣間見える蔵並

①嘉永3年（1850）頃～
②店蔵、座敷蔵、家財蔵、商品蔵、塀蔵など
③表の店蔵は、屋根瓦の幾何学模様が特徴的。敷地内には、9棟の多種多様な蔵がずらりと並び壮観。煉瓦造の蔵座敷もある。（非公開）

17.蔵のまち案内所

理容店の名残

①大正・昭和戦前頃
②（木造）
③現在は観光案内所だが、かつては理容店であった。内部には、その名残である鏡や洗面台が残る。 ここに寄って地図を手に入れ、ボランティアガイドの人にいろいろ教えてもらおう。

18.田原屋

まちの休憩所

①大正・昭和戦前頃
②店蔵
③10円まんじゅうが有名な和菓子屋。外からではわかりにくいが店蔵である。店の一角にテーブル（囲炉裏）と椅子があり、その場でお茶を飲みながら和菓子を食べることができる。

19.レディス島屋

新しい蔵造り

①昭和初期
②店蔵
③かつては呉服屋であったが、昭和43年より婦人服店に。1階にガラスを多用、2階の窓が観音開きでないことから、比較的新しい蔵造りと思われる。

20.冠木薬店

蔵の横の休憩スペース

①明治元年
②店蔵・（座敷蔵・商品蔵・塀蔵・厠蔵は非公開）
③薬屋としての創業は1716年。店蔵の隣には、椅子や湧き水があり、ほっと一息つける場所になっている。

21.蔵見世

刻字体験・田楽処

①明治
②座敷蔵・家財蔵
③道路際の店蔵が解体されて、この座敷蔵が通りに顔をだした。改修を経て平成12年オープン。福島県建築文化賞準賞を受賞。刻字体験のできる刻字工房と田楽屋。tel 22-0053

22.蔵座敷美術館

蔵を改装した美術館

①明治24年（蔵座敷）
②蔵座敷
③平成2年開設。笹屋旅館を訪れた竹久夢二の作品や酒井三良の六曲一双の屏風などを鑑賞できるのに加え、蔵座敷空間の面白さ、喜多方の奥深さをも味わえる。

23.松本屋

そっくり人形

①昭和初期
②店蔵・座敷蔵
③イタリア料理ではなく本屋。

24.若喜商店

縞柿の蔵座敷公開

①明治38年（蔵）
②煉瓦座敷蔵、味噌醤油蔵、商品蔵など
③三津谷の登り窯を作った樋口市郎がここで働いていた縁で、三津谷の煉瓦を使用。展示資料室から煉瓦蔵の内部を見られる。国登録有形文化財。

25.喜多の華酒造

酒蔵見学

①大正8年
②店蔵・酒蔵（仕込み、貯蔵）
③実際に手作りのお酒を作っている酒蔵の中で、酒造りの工程の説明をご主人から直接聞くことができる。店内では利き酒ができ、休憩スペースもある。

26.嶋新支店

昔ながらの店蔵

①大正13年
②店蔵
③たばこや荒物を扱う商店。店内では、昔からの棚や座敷などが現役で活躍していて、開店当初の面影を色濃く残している。現在でも、蔀を毎晩下ろし毎朝上げる習慣は続いている。

27.木之本

蒔絵体験

①江戸末期
②漆器蔵・塗蔵
③店内やうらの蔵に蒔絵の作業場があり、職人さんの仕事を見ることができるだけでなく、予約をすれば自分で描くこともできる。tel. 23-1611

28.漆器蔵會津野

蔵と塗物の資料展示

①明治初期
②漆の貯蔵蔵
③1階がお店で2階が塗り物についての資料や金田氏の写真の展示室。店先には昔からの古道具などが置いてあり、入り口の上には立派な神棚がある。蔵を改装した喫茶室併設。

29.孔雀屋

アイデア漆塗職人の技

①明治24年
②塗蔵
③蔵の2階で作業をし、1階で商品を売っている。アイデア商品をたくさん作っていて面白い。漆塗りについていろいろ教えてもらえ、運がよければ作業風景も見せてもらえる。

30.マルサ漆器店

縞柿の漆塗りと掛軸

①江戸末期
②塗蔵
③塗蔵であった蔵を商品の展示スペースとしている。床の間には縞柿の漆塗りがあり圧巻。菅原が漆器のまちになった由来についての掛軸もある。

31.黒沢履物・桐材店

下駄作り見学

①明治末期
②（木造）
③手作りのオリジナルの下駄を作ることができる。店内には、桐の輪積のライトや刻字の看板があり、お茶を飲むこともできる。店の奥には下駄作りの作業場がある。（見学可）

32.珈琲専門店煉瓦

煉瓦蔵のカフェ

①明治初期
②米蔵をカフェに改装
③昭和51年からカフェを開始。店内の改修には、煉瓦積職人であった田中又一の孫が関わっている。店内には、ここをよく訪れた写真家金田実氏の作品が飾られている。

■ 小荒井界隈

この地域（ふれあい通り）商店街沿い）は、「小荒井」と呼ばれ古くから栄えてきた集落です。鉄道の開通や国道121号線の開通で、このあたりは少しずつ変わってきました。しかし、今なお江戸・明治以来の個性的な店々が軒を連ね、その背後には、喜多方の歴史や生活文化の豊かさを物語る蔵々がひかえています。

路地をまたいで、吉の川酒造の商品蔵と醸造蔵のあいだに、屋根がかかっている。現在の法律では作れないもので、昔の生産活動の様子を残すものとして貴重である。

嶋新の映画やポスターで有名な蔵はここ。裏道から少し見える。柱の特徴的な蔵は、南町の三浦英次商店から引き屋してきた時に構造補強した。

毎年9月には諏方神社のお祭りが盛大に行われる。喜多方の人々の精神的拠り所

北宮諏方神社

裏から商店街の店々を見てみると、昔の生産活動の様子に思いをはせることができる。

昔はこの通りが東西方向のメインストリートであった。現在も通り沿いに蔵が残っている。

けやきの大木

吉の川酒造の道路から見える庭には、富士山の溶岩が使われており、立派である。

昔は甲斐本家と向かいの煉瓦蔵をトロッコで結び、荷物のやりとりをしていた。

鳴海屋（駄菓子屋）は喜多方の商店街では唯一のかやぶきのお店。中の座敷の様子も見ることができる。自家製の素朴なお菓子がおいしい。

喜多方厚生会館

昔はここの空き地に喜多方で唯一のデパートがあった。かつて、鉄道が通る前はこのあたりが町の中心であった。

「喜多方事件」の原因となった道路。この道路を作るために多くの人々が駆り出された。このやり方に対して、人々は団結して強く抵抗し、各地の自由民権運動にも影響を与えた。

今はタクシー会社の駐車場となっているが、昔は映画館であった。

蔵並みがよく見える横道

現在、市の文化財となっている喜多方会津型（染型紙）は、ここの小野寺家に伝わっていたものであった。

大和川の座敷蔵はもともとここにあった

島三の煉瓦蔵（非公開）。内部は凝った座敷で、昔の主人の療養のために建てられた。

昔の横丁の雰囲気が残っている

喜多方市役所

市役所などの公共施設には1980年代に三津谷の煉瓦窯に再び火の入った時に焼かれた煉瓦がよく使われている。市内の所々にあるので探してみよう。

喜多方の豊かさの源でもある水が湧き出ており、喜多の郷から水路を伝って流れ着いた什器が放たれている。市内のあちこちに昔の水路が残っているので、探してみよう。

樹齢約250年の松の大木

拡大

松本屋の2階の窓の扉は、閉じているときだけでなく、開いたときも隣の扉とうまく噛み合うようにできている。現在このような巧みなものを作れる職人は少ない。

昭和6年建築の喜多方では珍しい近代建築の商店。レトロなデザインの天井や柱、照明、棚、看板など店内も見ごたえあり！

亨禄5年（1532年）に築かれた塚原館について書かれた看板がある。

願入寺

この細い路地が、実は昔の越後街道であった。

会津バス喜多方営業所

■ 菅原町界隈

このあたり（菅原町）は漆塗りの職人が多くすむ地域で、蒲生氏郷が職人を近江の国から引き連れてきて、このあたりに住まわせたと言われています。会津若松と違い、直売している店が多いのが喜多方の特徴です。蔵は、温度湿度が一定で、外気の埃なども遮断できるため漆を塗るのに適しており、かつてこの地域には多くの塗蔵が存在しました。今でも蔵の中で作業をしているところもあります。

凡例

熊野神社

まちかどミュージアム

蔵などの見所

①建設時期
②蔵の種類
③コメント

- 蔵
- 煉瓦蔵
- 座敷蔵
- 醸造蔵
- 塗蔵
- 蔵並みの見所

※市外局番は0241

- 観光案内所
- レンタサイクル
- 駐輪場
- 駐車場
- バス停
- 宿泊施設
- トイレ
- 煉瓦煙突

JR喜多方駅

0 100m 200m